

プロアクティブな先生方

なぜ浜田小がイノベーションを起こしていけるのか

2020.02.12

No.90

校長 渡邊 幸二

こんな学校に私も勤務したい!

金曜日は授業参観、そしてその前日は学校経営訪問と先週も忙しい毎日でした。そんな中であっても、粛々と業務を進めていかれている先生方の圧倒的な力量の高さとエネルギーに本当に助けられています。ありがとうございます。

さて、経営訪問にお出でになった指導主事の先生には、今年度の浜田小の歩みをパ

ワポで説明いたしました。昨年度、H30年度のスタートは、どの学級も苦勞しているなあというイメージでした。そして今年度も、相変わらず苦勞の連続と感じていました。学級崩壊状態にならないのは、先生方のまさに力量の高さによるものでした。そういう、ある意味「教育困難校」とも思える状況にもかかわらず、酒田飽海をリードするパイロットスクールとして存在しているのは、これまた先生方の改革精神に支えられているからだと言えます。

この経営説明後の話し合いの中で、新しい動きを起こし先頭を突っ走る浜田小の姿をご覧になり、指導主事の先生からは、「私もこの学校に勤めたい!という気持ちです。」という嬉しいお言葉を頂戴しました。

なぜ浜田小がイノベーションを起こしていけるのか

浜田小が、なぜこれほどに改革精神に富んでいるのか…。「授業」という学校にとって最も重要な業務においても、運動会や食育などに見られた経営参画の態度にしても、公益・貢献活動やノート指導、日課表の改善、コグトレなど、挙げれば

きりがなほどの改善は、間違いなく先生方の意欲、態度によって引き起こされているものです。

本校にはE.K先生という、県内随一のマイスターがいます。日頃のご指導を見ていると、まさしく真のマイスターだと思います。かなりハイレベルな指摘があり、先生方もちょっとへこんでしまうこともあると思います。実際、昨年度当初は、そんなE.K先生の指導を「やり過ぎ」というような批判めいたことをおっしゃる先生もおりました。恐らくそういう厳しい指導をあまり受けたことのない先生だったのかもしれませんが。この



時代、そんだけの熱い指導を、敢えて言ってくださる指導主事はいません。私は非常にありがたい、貴重な意見であり、ぜひ耳を傾けるべきだと常々思っています。

そんなE.K先生に対し、浜田小の先生方は向かっていきます。うまくいかなかったときは、ではどうすればよかったのか…。という課題であれば、子どもたちが思考を始めるのか、E.K先生のデスクのところに出向き、時に跪き、教えを乞うている姿を見かけたことが何度もありました。恐らくそういう先生は、**授業の失敗を子どもの所為にしていない先生**です。常に自分事として、どうあればよいかを考えられる前向きな人です。**責任転嫁を決してしない、プロアクティブな人**だと思います。



この前向きで、改善志向の先生方だからこそ、教育困難校でありながら、常にイノベーションを起こし、先進的な取り組みができるのだと思います。本当にありがたいことです。

この先も、浜田小がこうあり続けてほしいなんて願うのは、何だか去る者の勝手な願い(秀吉のような)なのかもしれませんが、少なくとも先生方は、そういう気概を持ってこれからも授業改善を試み、**ver.2.0**の学校づくりを進めていってください。

ちょっと気になる…

○今日は、掃除をがんばっている子どもがいてうれしくなりました。



○「誘い合い登校」は、自由登校の姿に戻りつつあるところがあります。せっかくがんばってきたのですから、最後良い形で引き継げればうれしいです。



○朝はまだけっこう寒いですが、昇降口の開けっ放しを気にする子どもであってほしいなあ。

